

「北國」紙による事実無根の反共デマ記事の撤回と謝罪と重ねて要求する

2021年10月6日 日本共産党石川県委員会 委員長 秋元邦宏

9月20日付「北國新聞」のコラム欄「北風抄」で、作家で元外務官僚の佐藤優氏が、「日本共産党は『敵の出方論』に基づく暴力革命を是認しているとする公安調査庁の認識は間違っていない」などとして、日本共産党を「暴力革命の党」と誹謗・中傷し、党の名誉を著しく損なう重大なデマ攻撃を行いました。

これは、佐藤氏が日本共産党の綱領の立場を無視して、公安調査庁の主張をオウム返しにくりかえすことで、総選挙を前に広がる日本共産党への期待に泥を塗り、市民と野党の共闘の分断を図ろうとする悪質なデマであり、絶対に放置できません。

日本共産党は、社会変革の道すじにかかわって、過去の一時期に「敵の出方」論という説明をしてきましたが、その内容は、①選挙で多数の支持を得て誕生した民主的政権に対して、反動勢力があればこれの不法な暴挙に出た際には、国民とともに秩序維持のために必要な合法的措置をとる、②民主的政権ができる以前に反動勢力が民主主義を暴力的に破壊しようとした場合には、広範な国民世論を結集してこれを許さないというものです。民主的政権を樹立する過程でも、樹立したのちも、国民多数の支持を基礎に、一貫して平和的・合法的に社会変革を進めるとというのが、日本共産党の確固たる立場です。

なお、今回の佐藤氏のように、相手の出方によっては非平和的方針をとるかのような捻じ曲げた悪宣伝に使われるということで、この表現は2004年の綱領改定後は使わないようにしています。

党は国会の場で公安調査庁をただし、発足以来68年間にわたって日本共産党への不当な調査を続けながら、同庁側がこれまで「破壊活動の証拠」なるものを何一つ示すことができないことも明らかにしています。

コラムの執筆者は佐藤氏個人ですが、佐藤氏に特別に発言の場を提供しているのは北國新聞社であり、そこで公党に対するデマ攻撃が行われたことについては、寄稿内容を事前に確認したうえでこれを掲載した北國新聞社側に重大な責任があることは明瞭です。

北國新聞社も加盟する日本新聞協会の「新聞倫理綱領」では、「新聞の責務は、正確で公正な記事と責任ある論評によって……公共的、文化的使命を果たすことである」として、「正確と公正」「品格と節度」を求めるとともに、「正当な理由もなく相手の名誉を傷つけたと判断したときは、反論の機会を提供するなど、適切な措置を講じる」としています。

日本共産党石川県委員会として即日、北國新聞社につよく抗議し、訂正と謝罪を求めるとともに、党の反論文の掲載を求め、新聞社側と対応について話し合いを続けてきました。同紙側は、「個人の寄稿」であるとして社としての訂正や謝罪は拒否する一方で、一旦は反論文の掲載や「インタビュー形式で党の見解を紹介する」などの意向が示されたため、党として反論文を作成して提示し、文案についてのやりとりまで行ったにもかかわらず、最終的に、反論文の掲載などは一切しないとの回答を示し、極めて不遜かつ不誠実な対応をとりました。

このことは、北國新聞社が、自ら公安調査庁の特異な立場に立ち、同紙上で公党に対して行われた一方的な中傷とデマ攻撃の深刻さを理解できず、「新聞倫理綱領」が求める「正確と公正」「品格と節度」というメディアに問われている根本姿勢を乱暴にふにみじるものであることをきびしく指摘しなければなりません。

あらためて党として抗議するとともに、訂正と謝罪、反論文の掲載など適切な措置が講じられるよう引き続き求めていく立場を表明するものです。